

## 令和4年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	U16 プログラミングコンテスト&プログラミング講座
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・大森康正
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) (担当者職名・氏名)
4 事業の趣旨・目的	『プログラミングが子どもたちの未来をつくる』をキャッチフレーズに、U16 プログラミングコンテストとそのプログラミング講座を実施する。2020年度から小学校でもプログラミング学習が始まり、2022年度には高等学校までのすべての学校種でプログラミング学習が行われる。学校や地域で学んだパソコンやプログラミングが好きな子どもたちを“ほめ称える場”を作ることは喫緊の課題である。また、大学でプログラミングを学ぶ学生が、小・中学生たちを教えることで、共に成長し、それを『子どもたちの未来をつくる』という志をもつ大人たちが支える、ことを目指している。また、これら活動によって、地域のIT人材の育成、産業の育成、雇用の創出などを通して地域のSDGs達成に向けた大きな潮流を生み出す環境を提供することが可能である。
5 事業活動報告	<p>【事前講習会】 日時：2022年6月～9月の土曜日(9:00-12:00)に計8回実施 場所：『JM-DAWN』および『bibit』 参加者数：15名(小学生3名、中学生12名)</p> <p>【上越妙高大会】 日時：2022年11月3日(水)13:00～17:00 場所：『JM-DAWN』 参加者数 対面：38人 (内訳)参加者25名(大人プロコン参加者や家族含む) 報道関係や市役所関係者など2名、スタッフ11名 Zoomリモート参加：6名 Youtubeオンライン視聴：8名</p> <p>【プレ全国大会】 日時：2022年12月18日(日)13:30-15:30 場所：オンライン 参加者：U16 プログラミングコンテスト上越妙高大会優勝者1名 結果：全国第4位入賞</p>
6 本事業で得られた成果	学校や地域で学んだパソコンやプログラミングが好きな子どもたちを“ほめ称える場”として事前講習会および上越妙高大会を実施した。その中で現役のエンジニア、本学大学院生・学部生および参加者同士の交流などが行われていた。参加した大学院生などにとっては日頃の教育・研究の成果を生かした活動が見ることが出来た。また、併設の大人プログラミングコンテストとの交流を通して、『子どもたちの未来をつくる』という志をもつ大人たちが支える場の創出ができた。なお、上越妙高大会の優勝者(春日中学校2年)は、プレ全国大会に出場し第4位と健闘した。
7 その他(成果物等の名称)	上越タイムス、上越妙高タウン情報などに取り上げられた。

※事業の実施風景を写真撮影し、本報告書と併せて提出してください。

### プログラミングコンテスト

子どもと大人を対象にしたプログラミングコンテストが3日、上

越妙高駅西口のエンジョイプラザ2階「J MIDAWN(ジエーエムドーン)」で開かれた。16歳以下の部にオンラインを含む12

# IT人材育成の一助に

## 上越市 子ども・大人2部門実施



スクリーンに映し出される試合展開を状況とともに見守る参加者

人、大人の部に17歳から50代までの10人が参加し、トーナメント方式で互いのプログラムを競わせた。上越教育大とNPO法人上越地域活性化機構(ORAJA)が主催。IT人材の育成への意識を高めてもらいたいと、昨年度に続き企画した。

競技は「チェイサー」という対戦型プラットホーム上で、プログラム同士が1対1で対決。基盤目録のマップで駒が先攻と後攻で交互に動き、アイテムの獲得数を競った。相手の進路を阻んだり、駒同士が接近したりなど白熱した試合が展開し、参加者は真剣な表情で見守った。

### 県優良リサイクル事業所表彰 魚川市 トーヨーリトレッド タイヤ再利用で受賞

県環境会議は2日、本年度の県優良リサイクル事業所表彰の受賞事業所2社を発表した。上越地域からはトーヨーリトレッド(魚川市)が選ばれた。

同表彰制度は、事業者の廃棄物抑制、再利用、再資源化へと積極的に取り組み、優れた成果を挙げた事業所を表彰するもの。同会議によると、トーヨーリトレッドはトラックやバスなどの商用車で1次使用を終えて摩耗したタイヤを厳選し、トレッド部

16歳以下の部は、昨年に続き野崎琉弥君(春日中2年)が優勝。野崎君は「無駄な動きをしないように工夫した。今後は、生活の改善に役立つプログラミングに挑戦したい」と抱負を話した。

同イベント事務局長で上越教育大大学院の大森康正教授(59)は「プログラミングの知識や技術を、あらゆる場面で活用できる人材が育ってほしい」と願った。

### あいれふ安塚

## 2価ワクチン接種 入居者や職員ら対象

従来型ワクチンを上回る重症化予防効果とともに、感染予防効果や発症予防効果も期待される、オミクロン株対応2価ワクチン接種が4日、安塚区安塚の特別養護老人ホーム「あいれふ安塚」(太田雅俊施設長)で行われ、5回目接種は、4回目接種から3カ月を経過した入居者や職員(委託業者を含む)240人を対象に、同日と11、25日の3日間で接種を終える予定。同日は介護保険および障害者福祉施設の入

所者を対象とした施設集団接種で、上越市内では最も早い実施という。初日はファイザー社製ワクチンを使用し、70人が接種を受け、体調不良などの症状を示した人はいなかったという。



3、4年いずれも年末年始に新型コロナウイルス感染症が流行したことを踏まえ、重症化リスクの高い高齢者はもとより、若い職員も接種が終了し安堵(あんど)している。さらに、季節性インフルエンザとの同時流行に備え、インフルエンザワクチン接種も全員終了したので、「うつさない・うつらない」を全員で共有していきたい」と話した。

**毛虫 駆除**  
3,000円  
無料  
クリーンキッズ  
090-3497-9918

**高価買取**  
あなたの愛車を  
スピード査定 現金即払い  
**Car Attack**  
上越市上源入153-33  
025-544-1055

結婚支援事業で補助金追加募集  
12月23日まで県  
県は1日、本年度の結婚支援の取り組みを行う事業者の追加募集(2回目)を開始した。募集期限は12月23日まで。  
経済団体・法人などが行う独身者対象の出会いイベント、プラックアップセミナーなどに要する経費を補助

(接地面)を新たに復元したりトレッドタイヤ(再生タイヤ)を生産。廃棄物の発生抑制や再利用、再資源化を促進し、持続可能な社会・環境づくりに寄与している。

**波動**  
魚川川の誇る「レズイ」が11月4日、新潟県の石に指定された。県の花「チューリップ」、県の鳥「トリ」、県の花ユキツバキ、県の草花「雪割草」、県の観賞魚「錦鯉」に続き6番目の県公式シンボルになった。昨年3月の「翡翠(ひすい)」を新潟県の石にする会「発足時から推移を見守ってきた。コロナ禍で逆風の中、4万2892筆もの署名を得た活動に敬意を表したい。陰に日なたに頑張った人がいた。当初すでに「国石」であり「市の石」なのに、なぜ今「県の石」という疑問の声もあった。提案側からすれば、まさにその空白を埋め、ヒスイと魚川川の認知を県全体に広げたいという熱意があったと思う。同日の記念式典で高瀬吉洋会長は「魚川川の宝が新潟県の宝となる、きょうがスタート」と話した。会場が青海総合文化会館だったこともあり、ふと同地域市振出身の先人に教わった歴史の視点、「この地は一度も、越中にも信濃にもなつたことがない」という言葉を思い出した。越後の西端に残るまれな宝を自信を持って活用、情報発信し、保護保全すればよい。

**相続 遺言 後見 相続税**  
「何をどうしたらいいかわからない」方へ  
今しかできない準備もあります  
元気なうちに  
〇〇しておけば  
よかった…  
●任意後見契約 ●生前贈与  
●遺言公正証書 ●相続税簡易診断  
●生命保険、不動産の有効活用  
無料相談  
受付中!  
私たちに  
ご相談ください  
家族のカタチまもります  
日本相続知財センター®上越支部  
上越市北城町4-6-8 MBビル1F  
きたしろ相続相談センター 025-521-1165  
きたしろ相続 検索

# 上越妙高タウン情報

上越妙高

佐渡

[上越妙高タウン情報](#) > [ニュース](#) > U-16プログラミングコンテストに向けて講習会スタート

## U-16プログラミングコンテストに向けて講習会スタート

[いいね!](#) [シェア](#) [ツイート](#) [LINEで送る](#)

2022年06月18日 20:04更新

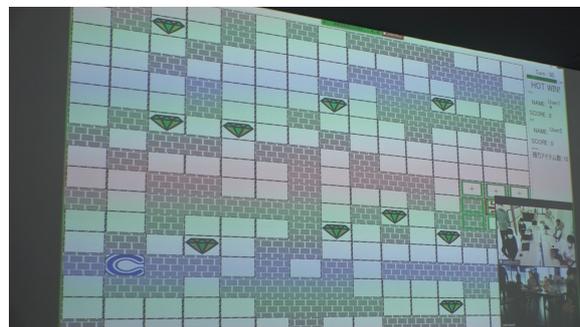
11月に開催される16歳以下のプログラミングコンテストに向けて、プログラミングの基礎や応用を学ぶ全8回の講習会が、18日から上越市内で始まりました。



U-16プログラミングコンテストは地域で活躍するIT人材を育もうと上越教育大学やNPO法人上越地域活性化機構（ORAJA）などが去年から始めたもので、こししの大会は11月に開かれます。この講習会はその大会の出場に向けて、プログラミングの基礎や応用を学ぶもので、上越・妙高市内に住む小学2年生から中学3年生までの15人が参加しました。また会場もコロナ対策として、上越妙高駅西口のJM-DAWNと本町4丁目bibitの2か所をオンラインで繋いで開かれました。



コンテストではチェイサーと呼ばれる1対1の対戦型競技に挑みます。マス目のマップには、アルファベットの「C（クール）」、「H（ホット）」と呼ばれるコマがあり、参加者が組んだプログラムに沿ってコマを動かして、マップ上のアイテムを取り合います。



この日初回の講習会では、チェイサーでコマに指示を出すためのプログラム言語「Python（パイソン）」をそれぞれのパソコンで使えるようソフトを導入したり、動作環境を整えたりする作業が行われました。



参加した中学2年生の男子は「Scratch（スクラッチ）をちょっとやってみたいくらい。これから自動で動くようなコマンドとかを作ってみたい」別の男子も「プログラミングは昔ちょっとだけやったことあるけど、最後まで完成できなかった。今回パイソンは初めて。結構難しそうだが出来たら上位狙って頑張りたい」また会場にいた小学生の保護者も「まずは考え方。プログラミング言語はロジックな部分がある。勉強にも生かしてほしい」と話していました。



主催する上越教育大学情報メディア教育支援センターの大森康正教授は「将来の地域課題をプログラムやテクノロジーを使って、解決していくための人材育成を目的の最初のひとつにしている。将来この参加している子どもたちが地域のためのデジタル人材として活躍してもらえれば。プログラマーにならなくとも、いろんな商店や地元の会社の中で自分たちのやる業務を自分たちで改善するためにこの経験を生かしてほしい」と期待しています。

この講習会は11月のコンテスト本番までにこのあと7回開かれます。また16歳以下とあわせて大人向けのコンテストも同時に開かれる予定です。詳しくはORAJAのホームページで今後発表されることになっています。

Copyright (C) 2016-2022 上越妙高タウン情報 All rights reserved.

# 上越妙高タウン情報

上越妙高

佐渡

[上越妙高タウン情報](#) > [ニュース](#) > [小中学生が挑戦！上越市でプログラミングコンテスト](#)

## 小中学生が挑戦！上越市でプログラミングコンテスト

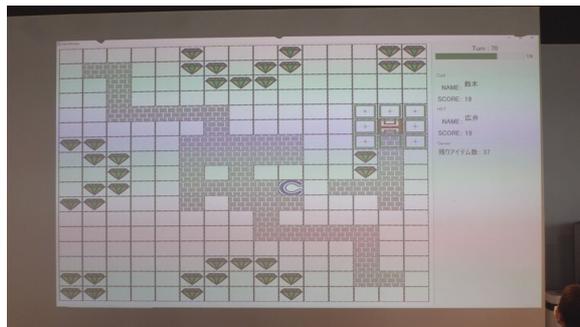
いいね!   シェア   ツイート   LINEで送る

2022年11月03日 17:41更新

デジタル社会に必要とされるプログラミングのコンテストが、3日（木）に上越市で開かれ、小中学生から社会人まで22人が参加しました。

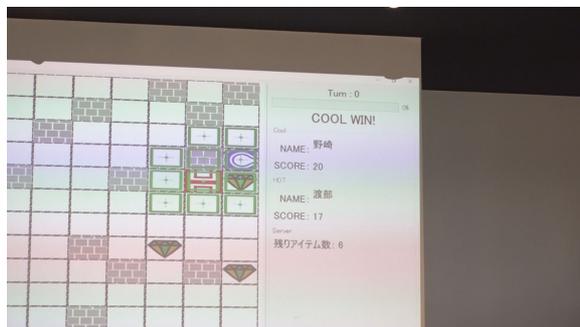


このコンテストは、プログラミングへの関心を高めてもらおうと去年から開かれています。16歳以下の部には、小中学生12人が参加しました。中には、京都に住む中学生も。



コンテストは「チェイサー」と呼ばれる、1対1の対戦型競技で行われます。マス目のマップには、アルファベットの「C（クール）」「H（ホット）」のコマがあり、それぞれ参加者が組んだプログラムに沿って動きます。その動きでプログラムの優劣が競われ、コマがダイヤの形をしたアイテムを探し、多くとったほうが勝ちとなります。

会場では競技の様子がスクリーンに映し出され、参加者が勝敗の行方を見守りました。



決勝に進んだのは、前回チャンピオンの春日中2年 野崎琉弥さんと、おなじく春日中2年 渡部岳琉さんでとなりました。



ふるふる  
現在放送中

L  
I  
V  
E



野崎琉弥さん

「ことしは大丈夫かなと心配だったが、優勝できてうれしい。一回通ったところは通らずに、無駄な動きをなくすことを意識してプログラミングを作った。（今後は）健康状態によって献立を立ててくれるプログラミングを作りたい」



コンテストは、来年も開かれる予定です。

Copyright (C) 2016-2022 上越妙高タウン情報 All rights reserved.